

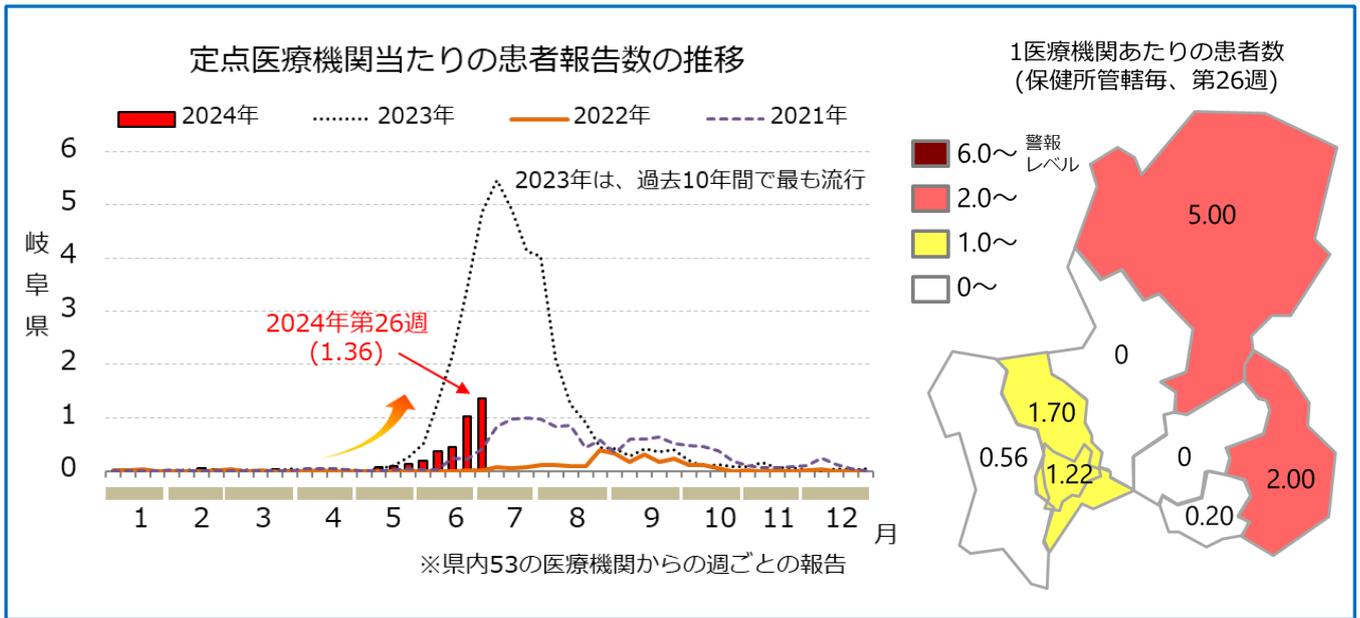
ぎふ感染症かわら版

令和6年7月4日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



「ヘルパンギーナ」に流行の兆しがあります！

ヘルパンギーナは乳幼児を中心に流行する夏かぜの一種です。昨年夏には全国各地で大流行し、今夏も岐阜県においてその患者報告数が増加しています。小さいお子さんのいる家庭や保育所などでは注意が必要です。



ヘルパンギーナは、5才以下のお子さんが多くかかります。感染すると高熱が出て、のどが赤くなり口の中に水疱（水ぶくれ）^{すいほう}ができます。多くの場合、数日で自然に治りますが、のどの痛みが強いため、食事や飲み物を受けつけず脱水症を起こすことがあります。また、まれに髄膜炎などを起こすことがあります。



ヘルパンギーナの原因は主にコクサッキーウイルスやエンテロウイルスです。飛沫や手指を介して感染するため、予防は石けんを使った手洗いが基本となります。帰宅時や食事の前など、特にトイレの後や、お子さんのおむつ交換をした後は石けんでよく手を洗い、しっかり水ですすぎましょう。また、唾液のついたおもちゃなどは洗浄・消毒しましょう。

※この病原体（ウイルス）は、症状が治まった後も2～4週間、便の中に出てくることがあり、長い間周りの人への感染源となる可能性があるため注意が必要です。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター

